

日本共産党 26 回党大会参加報告

2013 年 1 月 20 日

福間健治

日本共産党 26 回党大会は

○1 月 15 日～1 月 18 日の 4 日間、伊豆学習会館でおこなわれた。

○代議員は全国から 830 名、評議員は 95 名が参加した。大分県からは、7 名が参加した。

○大会は志位委員長の開会あいさつ、第 26 回党大会に対する中央委員会報告、15 人の来賓あいさつ、65 名の討論、志位委員長の結語、大会決議案と結語の採択、中央役員の選出をおこなった。

◎決議の特徴

1 章、「自共対決」時代の本格的始まりと日本共産党、対決、対案、共同

2 章、世界の動きをどうとらえ、どう働きかけるか「世界の構造変化」が生きた力を発揮しだした。

3 章、自民党政権の反動的暴走と対決し、新しい日本をめざす

4 章、国政と地方政治で躍進を本格的流れに

5 章、躍進を支える質量とも巨大な党建設を

6 章、日本における未来社会の展望

◎中央委員会報告にかみ合った討論がおこなわれた。大分県・中津市の成長発展目標達成について、大塚光義北部地区委員長が発言した。

◎結語

★「自共対決」時代の本格的に始まりという情勢の特徴が語られた。

★2010 年代に党勢倍加をやりきる展望がみえてきた。50 万党员、50 万日刊読者、200 万の日曜版読者の展望

★「世代的継承」、職場でも、若者でも、地域でも、展望が大きく見えてきた。

★未来社会の展望が大きな反響を呼んでいる。多くの若者、多くの人々が「人間、生きた労働の浪費」のなかで暮らしていること。未来社会への展望は、いまの若い世代、生きた人間の使い捨てにより、苦しめられているあらゆる世代

への確かなメッセージとなっている。

★来賓の感想—どの団体からも党の決議案への共感と期待の声、連帯するあいさつがおこなわれた。

★決議案の修正・補強について

★第3の躍進を本格的流れにしていくため、来年の一斉地方選挙は、私たちが直面する最初の関門

◎役員選挙

★役員選挙では新書記局長に山下よしき氏が選出された。